

三鷹市立東台小学校 令和5年度【理科】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第3学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べた事柄などを比較する活動を通して、観察・実験結果に結び付けることや、表現できるようにする工夫が足りない。 ○備品の整備が整っておらず、十分に実験することができないことがあった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○比較しながら調べる活動を通して、自然の事物・現象について追究する中で、差異点や共通点を基に、問題を見出し表現することができるようにする。 ○授業で取り上げた実験や観察だけでなく、他の場合など発展させた問いを生み出せるような発問のある授業をすすめる。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「問題」→「予想」→「実験」→「考察」という理科の学び方について知り、生活経験から事象について予想することに慣れ始めている。 ○虫眼鏡の使い方や、観察の仕方、観察カードの書き方など、理科の観察にかかわる基礎が身に付いてきている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○結果から考察することなどの、科学的に解決する仕方にまだ慣れておらず、検証した結果を基に論理的に考える力を高めていく必要がある。 	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○理科の学習の流れの通りに授業を展開することを意識しすぎるあまり、思考することに十分な時間が取れていなかった。 ○考察の重要性を感じさせたり、思考させたりすることに重点を置く指導が不足していた。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実験や観察をした後の、結果を基にした考察を個人考察から集団考察をするようにし、考察の時間を十分に確保するとともに、考察の質を高めていく。 ○教材で扱った物と、生活場面で獲得している知識や経験を比較・関連させることで、見方を広げたり一般化させたりすることができるように授業を構成・展開していく。
第4学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予想を立てる段階の深まりが不十分である。 ○理科における見方・考え方を働かせた予想を立てられず、実験における必然性や主体的な学びを引き出す工夫が足りない。 ○児童に体験をさせる学習が足りない。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の興味を引く導入を行い、予想の段階で考えが分化していくように教材研究をしていく。 ○見通しをもった単元計画を立て、児童の意欲を尊重し、児童自身が自分の予想を実験して確かめていけるように授業を展開する。 ○「問題」→「予想」→「実験」→「考察」の流れを定着させ、考えたり調べたりしたことを文章にまとめることができるようにする。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元で扱う題材に興味をもち、学習問題に対する予想をもつことができる児童が多い。 ○既習事項やこれまでの生活経験から比較して、様々な現象を捉えることができる児童が多い。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分で立てた予想に対して、根拠まで述べるのが難しい児童が多い。 ○電流など、目に見えないものについての現象は理解できているが、言葉で的確に説明することは難しい。 ○結果をとらえることはできるが、そこから考察としてまとめることは難しい。 	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目に見えないものについて、言葉で的確に表現させることが難しく、大まかなイメージの説明にとどまっていた。 ○考察する力にばらつきがあり、限られた時間内でまとめるように指導できなかった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目に見えないものについて、理解しやすいようにモデル図などを準備し、あいまいなまま終わらないように、ノート記述の確認を授業ごとに行う。 ○考えをまとめる時間を十分に確保する。また、お互いの意見を伝え合えるように、グループ活動を多く取り入れ、対話的に学習を進められるようにする。
第5学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実験結果から考察につなげる指導ができていなかった。 ○児童の考察を共有する機会が少なかった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実験の必要性と考えるべきことの接点を明確にして指導していく。 ○学習の見通しをもたせ、児童自身が考察することの必要感をもって参加できるよう授業を計画する。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メダカに興味をもち、積極的に飼育・観察をすることができている。メダカの生育環境を整えるための方策を自分で考え、継続的に実践できている。 ○それぞれが抱いた疑問に対して、主体的に調べたり、友達と協力して解決したりしている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○植物を長期にわたって栽培・観察することについて、責任をもって継続的に行うことができない。 ○実験の条件を考える際、条件制御の仕方を難しく感じる児童が多い。 	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長期的な植物観察について、方法を細かく詰めることができず、一人ひとりに責任感をもたせることができなかった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間の学習の見通しをもって、教材となるメダカの飼育を前年度から継続的に行っていく。 ○実験・観察の方法について、自分たちで持続可能な方法を十分に話し合い、やるべきことを明文化して、主体的に継続できるようにする。
第6学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入時に興味・関心を高める指導ができていなかった。 ○理科における見方・考え方を働かせた予想を立てられず、実験における必然性や主体的な学びを引き出す工夫が足りない。 ○備品の整備が整っておらず、実験がうまくいかないことがあった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題から児童の興味を引く導入を行い、予想の段階で考えが分化していくように教材研究をしていく。 ○見通しをもった単元計画を立て、児童の意欲を尊重し、児童自身が自分の予想を実験して確かめていけるように授業を展開する。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実験結果から考察をすることができるようになってきている。 ○自分の考えを根拠を明確にしなが、友達に伝えることができる。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業には意欲的に取り組んでいるが、知識が定着していない児童が多い。 ○自分の考えを伝えることはできるが、友達意見を聞いて、そこから自分の意見をさらに発展させ、多面的に妥当な考えを作り出すことは難しい。 	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の終わりに、新しく習得した知識の確認をする時間が十分に取れなかった。 ○備品の整備が不十分であった。前年度からの計画的な購入などの準備ができていなかった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知識の定着を図るために、知識・用語を確認する時間や、自分でノートをまとめる時間を十分にとるようにする。また、タブレットを活用して、家庭でも知識の定着を図れるような学習ができるように、教材を準備する。 ○用意できない実験器具については、現在ある器具でできるだけ代用できるように十分に吟味し、教材研究をする。次年度に向けて、足りない用具を準備していく。